



恕

早いもので1学期も残り2週間となりました。限りある時間を大切に過ごしてほしいです。



先週末は登校時間帯に猛烈な風雨の時がありました。子どもたちはその中を何とか歩いてきていました。交差点に立っていると、ある子が、

「先生、傘がひっくり返ります。」

と訴えてきました。普通に真上に傘をさそうとすると風にあおられて全く進めませんし、傘がひっくり返ります。

「傘を前にしてゆっくり進んでみようか。」

と言うと、なんとか進めるようになりました。今の傘はある部分だけ透明になっていてそこから前が見えやすくなっています。よくできてますね。

ある子は、ランドセルまでカバーするレインコートに長靴、小さめの傘を準備し完全防備です。きっとこれまでもこのような風雨の中を歩いた経験があるのでしょうか。その経験が準備するという考えや行動につながっています。

雨の時は、子どもが濡れないようにと学校まで送ってあげたくなります。激しい風雨の時はなおさらです。ただ、このような行為は見方を変えると、子どもが自ら考え、判断し、行動できるようになるための場や機会を奪っていることにもなります。登校時間を判断することも、雨の中を歩いて登校することも、子どもの学びの一つです。

誰だって雨の中を歩くのは嫌いです。濡れたくありません。(楽しむ子もいるようですが)でも、それに耐えて登校することで、少々の嫌なことや苦手なことでも頑張れるたくまさが身に付きます。一つのことに耐え、粘り強く頑張れる子どもは、他のことにも同様に頑張ることができるのです。

天気にかかわらず、車で登校する子どももいます。停車した車の車道側から降りて、歩道に駆け込む子、反対側の車道に止まった車から、横断歩道を渡らずに渡ってくる子、他の家の敷地内に止まった車から降りてそのまま渡る子、交差点の近くに止まった車から降りてくる子など、見ていてハラハラします。

おそらく小学校だけでなく、この光景は中学校、高校へと続いていくでしょう。その間に子どもたちには、

「ちょっとくらいなら大丈夫。」

「みんなもやっているから大丈夫。」

「誰も見てないから大丈夫。」

といった認識が知らず知らずのうちに身に付いてしまいます。

前号で「受け止め方」を子どもたちは学んでいる最中です、という話をしました。同じ車で登校するにしても、

「ここは停めたらだめって書いてあるから別のところに停めようね。」とか、

「ここはよそのお家だから入らないようにしましょう。」とか、

「あなたも車の免許を取るなら覚えときなさい。交差点とその端から5m以内は駐停車禁止だよ。」などの声掛けがあれば、周りのことを考える、ルールやマナーを守ろうという子どもたちの受け止め方が自然と育っていくと思います。

6月にあったきずな集会で、廊下を走る人は自分のことしか考えない人、歩く人は思いやりのある人という話をしました。子どもたちにとって、生活のすべてが学びの場、成長の場です。私たち大人が、考える場や機会、たくましく育つ場や機会をしっかりと与えていけたら素晴らしいと思います。「恕」は思いやりの心という意味です。「恕」とたくまさを併せ持った大人に成長してくれることを願います。

